

学区盆踊り大会



【東築地学区】

■世帯数：4,075 世帯

■人 口：10,716 人

■面 積：6.916k m²

平成 24 年 4 月 1 日現在

1 活動・取り組みの内容

- ・毎年夏の恒例行事として「学区盆踊り大会」を 2 日間開催。築地学区内の大同特殊鋼築地テクノセンターのグラウンドを会場に延べ約 2,000 人が参加する。（平成 24 年は、工事中のため木場公園にて開催。）
- ・行事委員会を設置し、その年の出店、踊り等運営内容を討議する。必要に応じて協力企業のメンバーも出席し、楽しい会場づくりに努めている。

【住民への PR 方法】

チラシの回覧、掲示板への掲示

【アピールポイント】

氷柱をおき、涼をとったのが好評で、子どもたちも大喜びだった。

2 きっかけ、背景

毎年夏の恒例行事として、住民間及び企業との意思疎通の機会として、2 夜にわたって行っている。

3 実施の体制

(1) 運営メンバー

区政協力委員、町内会・自治会長、
民生委員児童委員、保健委員、消防
団員、PTA、女性団体・女性会、子
ども会、スポーツ推進委員、少年補
導委員 計約 300 人

(2) 他団体との協力

地元企業、南部市場、愛知名港花
き地方卸売市場、地域商店など

(3) 運営協力

学区連絡協議会、各団体ともに全
員参加で活動している。

4 実施のスケジュール

毎年5月
上旬 本年の行事内容に関する会議



5月下旬 盆踊りの会場設定、役割分担の会合



6月 各担当の進捗状況の報告
定例会議にて盆踊り大会の内容説明



7月 定例会議にてチラシ詳細の打合せ



大会前夜 やぐら、テント等の設営

5 成果と課題

(1) 成果・効果

住民意識の高まり、住民間の交流の深ま
り、担い手の増加。役割分担することによ
り、年代別で参加し協力ができる。

(2) 今後の課題・展望

活動の継続と担い手の世代交代が今後の
課題。参加者が多数なので今後同じような
行事を継続できるか、努力が必要。

学区盆踊り大会

学区盆踊り大会を下記の日程で行い
ますので、あらって参加してください。



記



1. 日時 7月30日(土)18時から
7月31日(日)18時から

2. 場所 大同特殊鋼㈱グランド
*ペット同伴のご来場は禁止です。
駐車場はありませんので、徒歩でお
出かけください。設営

東築地学区連絡協議会

防火予防体制づくり強化



【中川学区】

■世帯数：3,007 世帯

■人 □：5,952 人

■面 積：1,844 k m²

平成 24 年 4 月 1 日現在

1 活動・取り組みの内容

① パトロール

学区全域3方面へ毎月1回夜間パトロールを行う。延べ参加者数は約130人。

② 町防だより

年に2回発行予定、地震・火災・風水害などへの心得などについて啓発。

③ 自主防災会との交流と研鑽

自主防災会組織の把握、防災備品の点検等。

④ 新会員との勉強会

セミナーなどへの参加。

⑤ 防災訓練

3地区において年1回ずつ実施。AED、消火器の使用訓練など行う。

【住民へのPR方法】

チラシの各戸配布、チラシの回覧、掲示板への掲示、年間スケジュール表で周知徹底を図る。

【アピールポイント】

活動の継続は力なり。

2 きっかけ、背景

学区内の火災・放火が多く、放火防止対策が不十分だった（軒下に新聞紙・雑誌を放置している）ことや、火災に対する意識が不足していた（ライターでの火

遊び・やかんの空焚き等）ことから、住民と防火に対する情報共有と意識啓発の必要性を感じ、防火予防体制を強化することとなった。

3 実施の体制

(1) 運営メンバー

区政協力委員、町内会・自治会長、
防災安心まちづくり委員
計約 40 人

(2) 他団体との協力

消防団、各町内会自主防災会

(3) 運営協力

学区連絡協議会、各町内会自主防
災会

4 実施のスケジュール

H17 年 全世帯を対象に防災アンケート実施



H18 年 全世帯を対象に防災アンケート No2
実施



H19 年 自主防災組織の見直し



H20 年 避難マップの作成・展示展開（各町内
会）



H21 年 自主防災会・防災備品の平準化を図る

5 成果と課題

(1) 成果・効果

- ・参加者が増加したほか、住民意識が高まり、2年連続でアンケート調査を行ったが、回答率が上がるとともに、調査結果へも関心が寄せられ、意識向上が見られる。
- ・多くの人が防災訓練に参加し、避難場所と避難設定ルートの確認をし、また避難ルートを決めていない人はその設定ができた。

(2) 苦労した点

- ・一人暮らしの方の対応に苦労した。また高齢者が多く、理解をしてもらうのに苦労した。

(3) 今後の課題・展望

- ・津波からの避難場所が少ない。また、放火対策で意識の低い人に対する、息の長い活動が必要であり、後継者育成が最大の課題。

(4) メッセージ・アドバイス

- ・防火意識が不足している人の関心を高める活動が必要であり、息長く、根気が大事。

自転車利用法令違反者「一声かけパトロール」



【東海学区】

■世帯数：2,370 世帯

■人 口：5,164 人

■面 積：0.492 k m²

平成 24 年 4 月 1 日現在

1 活動・取り組みの内容

自転車事故の防止、防犯、火災予防、町内美化を重点に学区内、特に地下鉄駅付近を中心にパトロールを実施している。延べ参加者数は約 200 人。

【住民への PR 方法】

学区連絡協議会（7 町内）で参加依頼

【アピールポイント】

参加者が多く、PR 効果が良好。また、一声をかけるのに心強い。自転車利用法令違反者に、二声をかけない。

2 きっかけ、背景

東海学区は公共機関が地下鉄東海通駅と小学校以外になく、面積も 0.492k m² と小さな住宅地域であり、地下鉄駅までの自転車交通量の多い道路での自転車の無謀な運転、無秩序な駐輪が問題となっているほか、自転車事故の多発が懸念されている。

3 実施の体制

運営メンバー

区政協力委員、町内会・自治会長、民生委員児童委員、保健委員、消防団員、女性団体・女性会、スポーツ推進委員 計約50人

4 実施のスケジュール

年間を通じ、交通安全市民運動、生活安全市民運動に合わせてパトロールを実施している。

5 成果と課題

(1) 成果・効果

パトロール参加者が増加し、住民意識が高まったほか、パトロールへの参加を通して特に住民間の交流が深まった。

(2) 今後の課題・展望

活動の継続と活動資金の確保が今後の課題である。住民への配布資料を作成したい。



成章学区盆おどり



【成章学区】

■世帯数：2,109 世帯

■人 口：5,402 人

■面 積：0.781 k m²

平成 24 年 4 月 1 日現在

1 活動・取り組みの内容

- 成章小学校校庭を会場に、毎年「成章学区盆おどり大会」を開催。延べ参加者数は 950 人。
- 事前に「盆おどり実行委員会」をコミュニティーセンターで 2 回開催し、チラシ、役割分担表、抽選券などを作成する。
- 事前に全戸に抽選券を配布し、当日会場にて抽選会を行う。

【住民への PR 方法】

チラシの回覧、掲示板への掲示、各町内会組長へ「盆おどりのお知らせ」回覧を依頼、学区全戸に抽選券を配布

2 きっかけ、背景

住民間や世代間のふれあい、交流促進の場として、20 年以上継続開催している。住民と役員とが直接ふれあうことで親近感を持つことができ、住民からの各種要望を直接聞くことができる。また、世帯間の会話の場を提供している。

3 実施の体制

(1) 運営メンバー

区政協力委員、町内会・自治会長、女性団体・女性会、民生委員児童委員、保健委員、消防団員、PTA、子ども会、老人クラブ、スポーツ推進委員 計約 120 人

(2) 他団体との協力

西築地学区女性会の盆おどり参加、成章小学校、学区外企業から、“うちわ”の提供

4 実施のスケジュール

H23 年 7 月 16 日 第 1 回盆おどり大会実行委員会開催
役割分担表作成、盆おどり大会開催のお知らせ（回覧）

7 月 25 日 第 2 回盆おどり大会実行委員会開催
役割分担表により各係の仕事の内容を確認

8 月 5 日 盆おどり賞品搬入、袋詰め

8 月 7 日 盆おどり大会開催

5 成果と課題

(1) 成果・効果

参加者の増加、住民間の交流の深まり。世帯間の交流や子どもの交流ができた。

(2) 苦労した点

活動の担い手が不足。若い世代の参加が少なく、活動の担い手が不足している。

(3) 今後の課題・展望

活動の継続、担い手の世代交代のために、若い世代に声をかけて参加を要請していきたい。



コミセンまつり開催による 住民間や世代間のふれあいと交流促進



【大手学区】

■世帯数：3,932 世帯

■人 口：9,413 人

■面 積：2.21 km²

平成 27 年 7 月 1 日現在

1 活動・取り組みの内容

- ・ 大手コミュニティセンターおよび中之島川緑地公園を会場に、「大手コミセンまつり」を3日間にわたって開催。延べ参加者数は約 2,500 人。
- ・ 学区連絡協議会で概要を提案し、具体的な内容は実行委員会で検討する。また、地域の各種同好会にも運営の協力を依頼している。
- ・ コミュニティセンターで日頃練習を積んでいる民踊同好会などによる学芸発表会、書道、俳句、編み物などの作品展、軽食を販売する模擬店、金魚すくい、老人クラブによる輪投げ大会などを行った。

【住民へのPR方法】

広報誌の各戸配付

【アピールポイント】

学区民全体で協力体制を取り、イベントの成功に努めている。

2 きっかけ、背景

コミュニティセンターの開設以来、一部の住民による活用が多いことが懸念されており、全住民が関心を持って集合するイベントを開催して欲しいとの要望から開催している。

3 実施の体制

(1) 運営メンバー

区政協力委員、町内会・自治会長、
民生委員児童委員、保健環境委員、
消防団員、PTA、女性団体・女性会、
子ども会、老人クラブ、スポーツ推
進委員、おやじの会、自主防災会
計約 90 人

(2) 他団体との協力

学区内のグループ・団体

4 実施のスケジュール

H27 年 学区連絡協議会でコミセンまつり
3 月 実行委員会設立、提案。

4 月 コミセンまつり実行委員会
(2回開催)

4 月 29 日 飾り付け準備

5 月 2 日 作品展の展示準備

5 月 3 日 コミセンまつり開催
終了後反省会

5 月 5 日 飾り付け・作品展の片付け

5 成果と課題

(1) 成果・効果

参加者が増え、住民間の交流が深まった。

(2) 苦労した点

参加者の確保に苦労した。活動の担い手が
不足している。

(3) 今後の課題・展望

活動の継続と担い手の世代交代、活動資金の
確保が課題である。



米づくり体験学習



【港西学区】

■世帯数：3,683 世帯

■人 口：8,911 人

■面 積：2,291 k²m

平成 24 年 4 月 1 日現在

1 活動・取り組みの内容

- ・ 小学5年生を対象に地域との交流を図るため、地域の田んぼを利用して米づくりの体験学習を実施している。
- ・ 春の田植え、秋の稲刈りともみすり、冬にはもちつきと縄ない・ぞうり作りを体験する。

【住民へのPR方法】

地域ボランティアと小学校の事前会議において決定

【アピールポイント】

米づくり体験学習をはじめて平成 24 年度で 11 年になるが、子どもたちが楽しく学習できている。勉強は思い出としてあまり残らないが、米づくりは忘れることなく、一生の思い出となる。

2 きっかけ、背景

学区内に田んぼが少なくなる中、子どもたちに米づくりの苦労を体験してもらい、物の大切さと人の気持ちや思いやりを身につけてもらう。また地域の大人と触れ合うことにより、非行化を防ぎたいとの思いもある。

3 実施の体制

(1) 運営メンバー

区政協力委員、民生委員児童委員、PTA、女性団体・女性会
4回で延べ約 150 人

(2) 運営協力

学区内の農業従事者に米づくりの指導者として協力依頼

4 実施のスケジュール

毎年 4 月 事前会議の開催



5 月 田植え



10 月
・事前会議の開催
・稲刈り
・もみすり（もみがらと米に分ける）



12 月 もちつき



翌年 1 月 縄ない、ぞうり作り

5 成果と課題

(1) 成果・効果

住民間の交流の深まり。子どもたちと地域の交流が深まり、あいさつを交わす事が多くなった。

(2) 苦労した点

活動の担い手が不足。米づくり経験者が高齢のため、指導者の負担が大きい。

(3) 今後の課題・展望

担い手の世代交代が課題。田起こし、種まき、田んぼの水管理、肥料やり、草取り等一連の管理者が少なくなっており、後継者として若い世代の育成が必要。

(4) メッセージ・アドバイス

学校、子ども、地域のふれあいの場を作る事が大切。



心のつどい in いなえいフェスティバル



【稲永学区】

■世帯数：3,699 世帯

■人 口：8,437 人

■面 積：2.396 k m²

平成 24 年 4 月 1 日現在

1 活動・取り組みの内容

- ・「心のつどい in いなえいフェスティバル」を稲永小学校体育館にて年に 1 回開催。参加者数は約 700 人。
- ・港南中学校吹奏楽部による演奏や在校生・卒業生・保護者などをメンバーとするドリームメンバーズによる演舞、稲永小学校音楽部による演奏、新一年生の作品展示、私設楽団「港南吹奏楽団」による演奏、港警察署による街頭犯罪・交通安全についての講話などを行っている。

【住民への PR 方法】

チラシの回覧、掲示板への掲示

【アピールポイント】

平成 24 年度で 10 回目の開催となり、学校の先生、保護者、生徒、児童の連携・絆が深まり、地域（学区）の文化的イベントの一つとして、住民が開催を楽しみにしている。

2 きっかけ、背景

稲永学区青少年健全育成協議会の「冬の青少年を守る運動（期間 12 月 1 日から翌年 1 月 15 日）」の一環として、子どもたちの健やかな成長を願うとともに、保護者の意識高揚、学区住民の親睦、学区連絡協議会のより一層の隆盛、融和を願い開催している。

3 実施の体制

(1) 運営メンバー

PTA、中学校のOB、青少年健全育成委員 延べ約 150 人

(2) 他団体との協力

小中学校PTA、学校開放委員会、港南中学校OB、港南吹奏楽団・ドリームメンバー、港南中学校吹奏楽部、稲永小学校音楽部、港警察署

(3) 運営協力

新聞専売所（広報活動、イベントチラシ作成）、小・中の児童・生徒が参加協力する事で世帯間を超え、その連携が常に後継者育成につながっている。

4 実施のスケジュール

毎年 5月 1年間の役割（計画）立案

9月 イベントの内容について打合せ

11月 最終打合せ

12月 開催

5 成果と課題

(1) 成果・効果

参加者の増加、住民意識の高まり、交流の深まり。PTA・先生と保護者の交流が多くなり、一体感が生まれてきた。

(2) 苦労した点

発足当時は活動資金がなかった。

(3) 今後の課題・展望

活動の継続と担い手の世代交代が課題。ボランティア精神で活動してくれる自営業者が不景気で少なくなった。

(4) メッセージ・アドバイス

学区は見守り隊であって、出場者のコミュニティをよく見聞き自由にコラボさせる事で、一層一体感が生まれる。
（共汗・共学）



ふれあい宅配



【野跡学区】

■世帯数：1,485 世帯

■人 口：3,479 人

■面 積：4.732 k m²

平成 24 年 4 月 1 日現在

1 活動・取り組みの内容

- ・ 日常的な買い物に行くための交通手段を持たない、“買い物難民”と呼ばれる人のために、野跡学区市営稲永荘において、買い物支援サービス「ふれあい宅配」を実施している。
- ・ 毎週火曜日及び金曜日の午前 11 時から午後 2 時の間、稲永荘の集会所にてタブレット端末を使用し、ネットスーパーを活用して買い物を行う。注文した商品は、翌日事業者により自宅に配達される。参加者数は約 100 人。

【住民への PR 方法】

チラシの各戸配布、回覧、掲示板への掲示

【アピールポイント】

食料品や日用品の買い物にも困っている“買い物難民”を支援するため、社会福祉協議会や企業と連携して、宅配サービスを行っている。

2 きっかけ、背景

「足腰が悪く買い物に行くのが不便」「重たい物が運べない」などの高齢者からの要望により、買い物支援ふれあい宅配が始まった。

3 実施の体制

(1) 運営メンバー

区政協力委員、町内会・自治会長、
民生委員児童委員、保健委員
計約 20 人

(2) 他団体との協力

港区社会福祉協議会、企業と区政
協力委員で、「買い物支援プロジェク
ト会議」を設置

(3) 運営協力

各自治会の若い世代をリーダー
として育成

4 実施のスケジュール

H24 年 1 月 31 日 ふれあい宅配実施に向けた検討
を実施

4 月 28 日～ 11 月 1 日 買い物支援プロジェクト会議を
月 1 回、計 7 回開催

9 月 7 日 ふれあい宅配を開始

9 月 7・8 日 オープニングイベントを開催

以降毎週火・金曜日に実施

5 成果と課題

(1) 成果・効果

- ・集会所で商品の注文を行うことを通じ、今まであまり関わりのなかった人たちと、一緒にお茶を飲みながら仲良く話すことができるようになり、住民間の助け合いの関係が構築できた。

(2) 苦労した点

- ・タブレット端末を利用して商品を注文するため、タブレット端末の利用や、ID・パスワードになじみのない方に参加してもらうこと。
- ・活動の担い手不足と他団体との協力体制を築くこと。

(3) 今後の課題・展望

- ・活動の継続と他団体との協力が今後の課題。
- ・買い物支援を通じて、新しいボランティアの仕組みや、高齢者の安否確認など地域福祉の推進につなげていきたい。

(4) アドバイス・メッセージ

- ・活動にあたっては、社会福祉協議会と連携して進めていくことが重要です。



「花いっぱい運動」の実施



【小碓学区】

■世帯数：3,866 世帯

■人 □：9,284 人

■面 積：1.183 km²

平成 24 年 4 月 1 日現在

1 活動・取り組みの内容

- ・ 14 か所の“子ども 110 番の家”及び 26 か所の小学生の分団（通学班）集合場所に花を植栽する「花いっぱい運動」を実施。延べ参加者数は約 500 人。
- ・ 小学校を通じて保護者に資料で説明し、保護者と子ども、地域で実施している。
- ・ 地域でプランターの土づくりを行い、学区連絡協議会から学校へ花と土を贈呈する。小学校では授業の一環として分団下校の際に分団集合場所に地域の人々の補佐を受けながら植栽する。
- ・ 「子ども 110 番の家」には区政協力委員が配達する。

【住民への PR 方法】

学校の資料のほか、学区連絡協議会のレジュメにて知らせる。

【アピールポイント】

「町を美しくする運動」の一環として小学校と連携し、分団集合場所と「子ども 110 番の家」に花苗を植栽している。

2 きっかけ、背景

小学校の子どもたちに町美意識を高めることや玄関先にプランターを置くよう「子ども110番の家」の協力を得ることで町の美化につなげ、植物を育てる意識を持ってもらうことを目的に進めている。

3 実施の体制

(1) 運営メンバー

区政協力委員、保健委員、PTA
計約50人

(2) 他団体との協力

小碓小学校地域委員、保健委員会

4 実施のスケジュール

H13年 学校と地域（連絡協議会）と連携
6月 し、立ち上げ



10月 年2回実施スタート



以降 継続中

5 成果と課題

(1) 成果・効果

住民意識が高まった。子どもたちとの花苗の植栽や、「子ども110番の家」にプランターを置くことにより町美意識が高まった。

(2) 苦労した点

子どもたちが水やりを忘れても、地域の大人が補助してくれている。

(3) 今後の課題・展望

今後も活動を継続して行きたい。

(4) メッセージ・アドバイス

町を美しくするには清掃の他、プランターを随所に置くことも効果的。



コミセン祭り



【正保学区】

■世帯数：2,925 世帯

■人 口：7,407 人

■面 積：0.895 k m²

平成 24 年 4 月 1 日現在

1 活動・取り組みの内容

- ・ 正保コミュニティーセンターを会場に、日頃の稽古や練習の成果を年に 1 回発表する場として「コミセン祭り」を開催。延べ参加者数は約 250 人。
- ・ 出演希望グループの受付、演目を決定し、プログラムの作成準備、舞台セッティングの工程表の作成、出演者との打合せ、学区内での PR を経て開催。

【住民への PR 方法】

チラシの回覧、掲示板への掲示

【アピールポイント】

参加した人たちがみんな喜びと達成感から、「次年度はこうしよう」と新しい挑戦意欲が生まれてきた。

2 きっかけ、背景

日頃コミュニティーセンターを利用し、活動する地域の人たちから、発表の場を持ちたいとの要望があり、コミセン祭りを開始した。世代間の交流促進を図るため、正保小学校金管バンドや地元の大治太鼓正徳教室なども交えて、幼児・学童の保護者にも参加の機会を設けている。

3 実施の体制

(1) 運営メンバー

区政協力委員、民生委員児童委員、保健委員、消防団員、PTA、女性団体・女性会、子ども会、老人クラブ、スポーツ推進委員 計約 25 人

(2) 他団体との協力

正保小学校金管バンド、港北中学校吹奏楽部

(3) 運営協力

子ども会リーダーの協力、小中 PTA の協力により、将来地域の後継者につながるものと期待している。

4 実施のスケジュール

H23 年 5 月 区政協力委員により骨子決定

7 月 出演希望の受付

9 月 申込グループ責任者と打合せ

運営メンバーの役割分担の決定
10 月 プログラムによる出演者との調整

11 月 「コミセン祭り」20 日に実施

5 成果と課題

(1) 成果・効果

参加者が増加し、住民意識が高まり、交流も深まった。小学生・中学生・大人と各世代にわたり出演するため、地域の盛り上がりにも効果があった。

(2) 苦労した点

活動の担い手が不足している。会場が狭く出演者の控え室などがないため、小学校体育館への移動も考えた。

(3) 今後の課題・展望

活動の継続、担い手の世代交代が課題。次世代に引き継がれるよう、若い世代を取り込んで行きたい。

(4) メッセージ・アドバイス

年 1 回ではあるが、企画運営には種々苦労する。平成 24 年度で 12 回目となるが、成功した喜びと満足感が次へのステップになる。まず実行してみることが大切。



学区福祉体育祭「第21回グラウンドゴルフ大会」



【明徳学区】

■世帯数：2,966 世帯

■人 □：7,273 人

■面 積：1.202 k m²

平成 24 年 4 月 1 日現在

1 活動・取り組みの内容

- ・ 明徳小学校校庭を会場に、8町内会のグラウンドゴルフチームが競い合う「グラウンドゴルフ大会」を開催する。延べ参加者数は約 380 人。
- ・ 1 ラウンドごとに小中学生、一般混合、高齢者といったように、参加チームを変えて町総合の順位を決める。大会終了後はビンゴゲームを開催。

【住民へのPR 方法】

各町内会で町内会だよりを配布、周知

【アピールポイント】

大会を通じてお互いを知り、声をかけあうようになる。そうした住民同士のつながりが青少年の健全育成につながる。

2 きっかけ、背景

グラウンドゴルフは各町内会で同好会が月に2～3回練習しているほか、老人会はかなりの練習を積んでいる。高齢者やひとり暮らし世帯の増加や地域の子どもを知らない大人の増加に対し、住民の交流と健康増進を図るためのスポーツイベントとして開催。

3 実施の体制

(1) 運営メンバー

区政協力委員、民生委員児童委員、
スポーツ推進委員 計約 30 人

(2) 運営協力

各町内会役員や組長が住民間の交
流を図ることを常に心がけている。

4 実施のスケジュール

H24 年 学区の会議において町内会長等に
7 月 開催の案内



9 月 「グラウンドゴルフ大会」の開催

町内ごとに独自に練習。町内の同好会では
月に 2～3 回は練習している。

5 成果と課題

(1) 成果・効果

住民の意識が高まったほか、大会を通じて顔見知りとなり、あいさつをしあ
うなど住民間の交流が深まっている。

(2) 苦労した点

参加者の確保。子どもの参加者が減っているため、子ども会に参加者募集を
依頼している。また高齢者の参加者を確保するため、老人会へ参加者募集を依
頼している。

(3) 今後の課題・展望

活動の継続、活動資金の確保が課題。大会は日曜日に実施しているが、なか
なか参加者の確保が難しい。



災害に強いまちづくり



【当知学区】

■世帯数：3,882 世帯

■人 口：9,579 人

■面 積：1.297k m²

平成 24 年 4 月 1 日現在

1 活動・取り組みの内容

- ・ 地震や津波などの災害時の避難場所がすぐわかるように、各家庭に避難場所を明示したシールを配り、家の中の目につく場所に貼る活動。
- ・ 費用は町内会ごとの負担。
- ・ 避難場所が決まった町内会からシールを各家庭に配布する。

【住民へのPR 方法】

チラシの回覧

【アピールポイント】

いざ避難する時にあわてないために！

2 きっかけ、背景

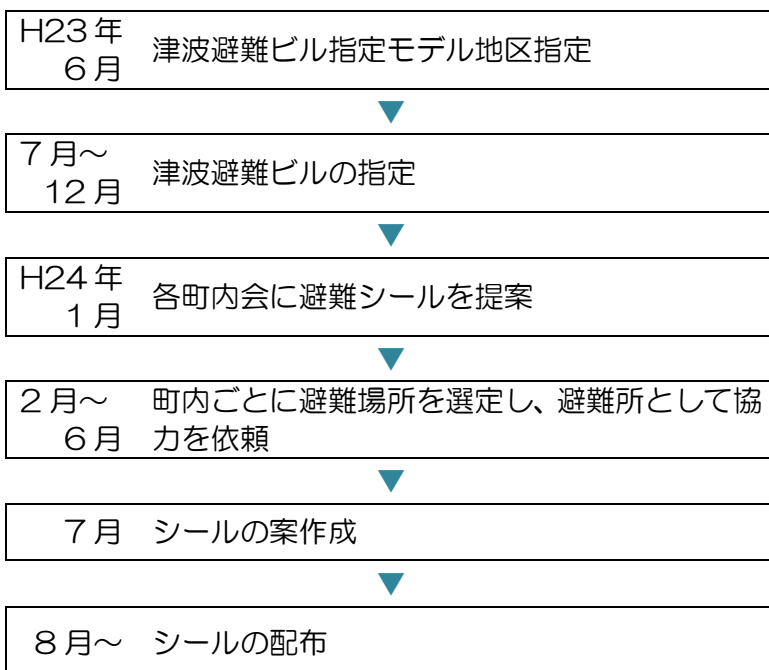
平成 23 年 6 月に港区が津波避難ビル指定モデル地区に指定され、津波避難ビルとして協力してくれる施設を依頼すると同時に、町内会ごとに避難する場所を選定する必要と各家庭に避難場所を明示する必要があった。

3 実施の体制

運営メンバー

区政協力委員、町内会・自治会長、民生委員児童委員、保健委員、消防団員、PTA、女性団体・女性会、子ども会、老人クラブ、スポーツ推進委員
計約 30 人

4 実施のスケジュール



5 成果と課題

(1) 成果・効果

住民の防災に対する意識が高まった。

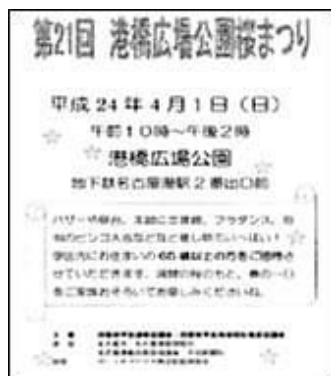
(2) 苦労した点

避難場所の選定、避難施設の協力を得ること、町内会の負担などについて住民の理解を得ることに苦労した。

(3) 今後の課題・展望

活動の継続が今後の課題。

港橋広場公園桜まつり



【西築地学区】

■世帯数：2,335 世帯

■人 □：4,964 人

■面 積：1.114km²

平成 24 年 4 月 1 日現在

1 活動・取り組みの内容

- ・ 毎年 4 月の第一日曜日を実施日と定め、名古屋港の桜の名所である、港橋広場公園にて、地域住民のふれあいを深めるとともに、町の活性化を目的として「港橋広場公園桜まつり」を開催。参加者数は約 1,000 人。
- ・ 65 歳以上の高齢者と子ども会に所属する小学生を招待し、物品購入券を配布。
- ・ バザーや屋台に加え、太鼓や三味線、フラダンスなどのステージイベント、ビンゴ大会などの実施。
- ・ まつりで出たゴミは分別して処分。

【住民への PR 方法】

チラシの各戸配布、高齢者への招待状

【アピールポイント】

少ない桜ではあるが、充分楽しんでもらえている。イベントに使える公園を活用している。

2 きっかけ、背景

平成 3 年江川線道路が 25 メートルから 50 メートルに拡幅されることに伴い旧運河にかかっていた港橋（昭和 12 年竣工）の欄干が移築されることとなった。同時に桜の木の伐採の可能性が出てきたため、学区主催の「桜を惜しむ会」が開催された。会は大変盛況で、その後桜の存続が決定され、翌年第 2 回港橋桜まつりが行われた。平成 6 年に港橋広場公園が完成し、主催を学区から商店街振興組合に切り替え、規模も拡大したことで学区をあげてのまつりとなった。平成 24

年度で21回目の開催となる。(平成23年に商店街から学区主催に戻したが、祭りの規模はそのままとなっている。)

3 実施の体制

(1) 運営メンバー

区政協力委員、民生委員児童委員、保健委員、消防団員、PTA、女性団体・女性会、子ども会、老人クラブ、スポーツ推進委員、商店街振興組合
計約120人

(2) 他団体との協力

ポートオブナゴヤ商店街振興組合、名古屋港観光施設協議会、名古屋港管理組合、地域の企業、病院、介護施設、授産施設、みなと文芸協会

(3) 運営協力

商店街の人材育成のため、一時期主催を商店街としたが、現在は学区主催に戻し、学区で人材を育てることにした。

4 実施のスケジュール

H24年1月23日 学区より準備委員会委員委嘱

2月15日 第1回準備委員会(要項、予算案作成、招待者の人数調査・手続き)

3月9日 学区定例会(要項・予算・来賓案の審議)

3月19日 第2回準備委員会(内容の確認 役割分担 諸申請 手続き)

3月31日 前日準備(物品搬入)

4月1日 開催 当日準備(物品搬入 設営)

5 成果と課題

(1) 成果・効果

参加者の増加、住民意識の高まり、交流の深まり、担い手の増加。参加者がまつりを楽しみにしてくれるようになった。

(2) 今後の課題・展望

運営側に高齢者が多くなり、活動の担い手の確保が課題。

(3) メッセージ・アドバイス

多くの人に関われるようにし、知恵をつかい、手作りを心がけることが重要。住民に喜んで参加してもらい、喜んで帰ってもらうことを大切にしている。

あるけあるけ災害に強いまち港楽



【港楽学区】

■世帯数：3,711 世帯

■人 口：8,566 人

■面 積：1.316km²

平成 24 年 4 月 1 日現在

1 活動・取り組みの内容

- ・ 災害に直面した場合、どこへ避難してどのように対応するかを事前に確認するために、自分の家から避難場所までの経路や時間を確認しながら学区内を歩くイベントを開催。参加者数は約 90 人。
- ・ 避難場所については説明を聞くだけでなく、実際に歩いて自分の家からの距離、時間を確認することが重要。

【住民への PR 方法】

チラシの回覧

【アピールポイント】

単なる歩け歩けで学区民の親睦を深めるのみではなく、いつかは起こるであろう災害にどのように対応したらよいかという認識も持つことができ、一石二鳥です。

2 きっかけ、背景

近年、日本各地が地震や津波の災害に見舞われる中、東海・東南海連動地震では、港区においても液状化などの被害が発生すると予想されており、被害を小さくするにはどのように対応したら良いかを考えておくことが必要である。そこで、

学区内をくまなく歩く行事に避難場所の確認を付加した内容で実施することを考えた。

3 実施の体制

(1) 運営メンバー

区政協力委員、消防団員 計約 20 人

(2) 他団体との協力

名古屋みなと災害ボランティアネットワーク



4 実施のスケジュール

H24 年 5 月 体育委員協議会にて内容の模索



- 6 月
- ・「ウォーキング港楽」を災害対応型ウォーキングとすることを検討
 - ・災害対策付加式ウォーキングの実施

5 成果と課題

(1) 成果・効果

参加者が増加し、住民間の交流が深まった。また、災害に対する住民の意識が高まった。

(2) 苦労した点

住民の理解を得ること、活動の担い手不足。ありきたりな「歩け歩け」から若い世代の災害に対する理解が深まった。

(3) 今後の課題・展望

他の団体と協力し、活動を継続していきたい。

学区グラウンドゴルフ大会



【高木学区】

■世帯数：3,498 世帯

■人 口：9,066 人

■面 積：1.538 k m²

平成 24 年 4 月 1 日現在

1 活動・取り組みの内容

- ・ 善南公園グラウンドを会場に、「学区グラウンドゴルフ大会」を開催。参加者数は約 210 人。
- ・ 各町内会が町内会長を含む小学生から高齢者までの6人編成の混成チームを作って大会を行う。
- ・ 各町内の体育委員を含む 11 人の運営委員で運営する。

【住民へのPR方法】

チラシの回覧、掲示板への掲示

【アピールポイント】

小中学生、成人、高齢者、みんなで楽しんでいる。

2 きっかけ、背景

学区の運動会をスポーツ推進委員を中心に各町内の体育委員で企画してきたが、種目が多く参加者を動員することが大きな負担となっていたため、現在の社会状況では続けることができなくなった。そのため、グラウンドゴルフに種目をしぼって区全体の大会に向けての予選会を兼ねて行うこととした。

3 実施の体制

(1) 運営メンバー

区政協力委員、町内会・自治会長、民生委員児童委員、保健委員、消防団員、PTA、女性団体・女性会、子ども会、老人クラブ、スポーツ推進委員、各町内会体育委員 計約 20 人

(2) 他団体との協力

学区連絡協議会

(3) 運営協力

各町内会の体育委員を含めて 11 人の運営委員で実施している。

4 実施のスケジュール

H24 年
5月 体育委員の会合



6月 学区連絡協議会にて相談



7月 町内会長にチラシ回覧を依頼



10月 グラウンドゴルフ大会 開催



5 成果と課題

(1) 成果・効果

住民意識の高まり、交流の深まり、担い手の増加。各町内ごとに食事をしながら世代間交流を楽しんでいる。

(2) 苦労した点

会場の確保が難しい。

(3) 今後の課題・展望

活動の継続が課題。仲間を募り、長く続くように頑張りたい。

(4) メッセージ・アドバイス

町内会長を必ずメンバーに入れることとしたため、町内会長を中心とする地域の活動が活発化した。

学区地域福祉推進事業

「高齢者ふれあい給食」「健康いきいき教室」



【神宮寺学区】

■世帯数：1,841 世帯

■人 □：4,788 人

■面 積：1.087 km²

平成 24 年 4 月 1 日現在

1 活動・取り組みの内容

① 高齢者ふれあい給食

- ・コミュニティセンターと神宮寺小学校を会場に、高齢者に給食を提供する。また、高齢者の近況調査し、支援策を検討する。延べ参加者は約 300 人。
- ・提供する料理は全て手づくり。会食は年 2 回、配食は年に 3 回、小学生とのふれあい給食は年に 1 回実施する。

② 健康いきいき教室

- ・高齢者の身心の活性化を目的として、コミュニティセンターを会場に「健康いきいき教室」を開催する。延べ参加者数は約 450 人。
- ・介護のお世話にならないための予防についての講演会や健康指導などを行う。

【住民への PR 方法】

チラシの各戸配布、回覧、連絡協議会等各種会合で連絡

【アピールポイント】

「高齢者ふれあい給食」には高齢者が積極的に参加、ふれあい語り合える機会に心のゆとりを持ち、明るさを取り戻した。

「健康いきいき教室」は保健委員、老人リーダーを中心に雰囲気作りに心がけ、健康講座や楽しく食べることについてなど身近なテーマに絞り、参加者の健康維持に役立っている。

2 きっかけ、背景

ひとり暮らしをする高齢者の増加に伴い、引きこもりがちな高齢者も増えてきた。そうした方が外出するきっかけとなる会食や、外出が困難な方へは配食サービスを行っている。また、健康で楽しい生活を営むための講演会、娯楽や健康管理などの教室を開催するなど、高齢者を地域で支えるための活動を展開している。

3 実施の体制

(1) 運営メンバー

区政協力委員、民生委員児童委員、保健委員、女性団体・女性会、老人クラブ、保健所・社会福祉協議会

（「高齢者ふれあい給食」では計約 16 人、「健康いきいき教室」では計約 35 人）

(2) 他団体との協力

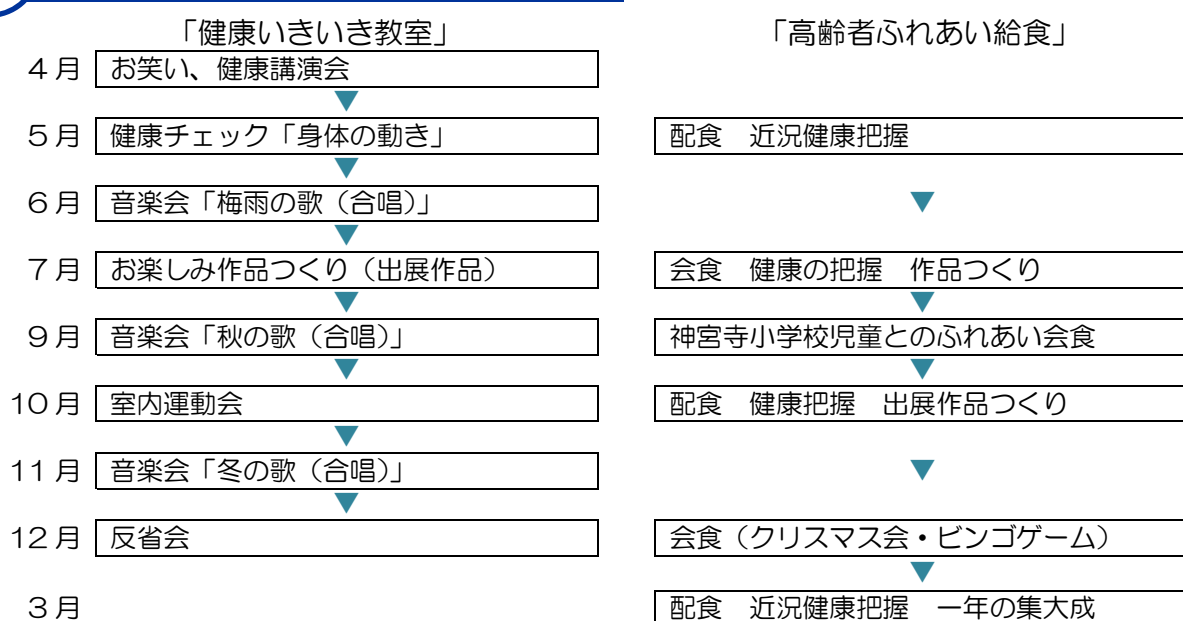
「高齢者ふれあい給食」：神宮寺小学校、社会福祉協議会

「健康いきいき教室」：港保健所、区福祉事務所

(3) 運営協力

学区連絡協議会の構成団体に人材発掘の協力を求める。

4 実施のスケジュール



5 成果と課題

(1) 成果・効果

- ・参加者の交流が深まり高齢者の近況を把握できる。（給食）
- ・高齢者が介護を求めず、積極的に物事に向かう機会ができた。（教室）

(2) 苦労した点

- ・参加者の生活環境把握、運営メンバーの高齢化で負担増加。（給食）
- ・運営協力者の事業内容把握と理解が難題。進める中で理解が深まった。（教室）

(3) 今後の課題・展望

- ・高齢者の健康と日常生活の把握が最優先。民生委員や保健委員会との連携を深め、組織強化を図り活動を継続していきたい。

(4) メッセージ・アドバイス

- ・民生委員の高齢者とのふれあいができれば学区全体の高齢者の現況が把握でき、多くの知識が得られる。（給食）
- ・神宮寺学区独自の事業だが、学区担当者が担当地域外の高齢者と交流ができれば、よりよい事業について研究することができる。（教室）

交通安全パレード



【南陽学区】

■世帯数：2,672 世帯

■人 口：7,750 人

■面 積：7.377k㎡

平成 24 年 4 月 1 日現在

1 活動・取り組みの内容

- ・夏の交通安全運動に先駆け、子どもと若者の交通安全を訴えるために行う交通安全パレードを実施し、南陽小学校を起点に約 150 人が約 1 km を歩く。
- ・交通少年団の児童は「ライト点灯」などの交通標語がかかれた発泡スチロール製の「ハンドプレート」を手にかけ行進する。南陽小学校器楽部員も演奏で参加。

【住民へのPR方法】

小学校や交通少年団を通じて参加を呼びかける

【アピールポイント】

交通少年団が率先し、大人に対して交通安全を願う活動。

2 きっかけ、背景

南陽学区は名古屋市南部に位置し、熱田区と同じ面積がある。そのため、登下校に時間がかかることもあり、集団登校を実施している。集団登校では上級生による交通少年団が引率していく。

3 実施の体制

(1) 運営メンバー

区政協力委員、民生委員児童委員、消防団員、PTA、女性団体・女性会、子ども会、老人クラブ、スポーツ推進委員 計約 150 人

(2) 他団体との協力

小学校 P T A の役員

(3) 運営協力

小学校へ呼びかけ、子どもたちや P T A からの協力も得ている。

4 実施のスケジュール

6月 交通安全パレードの実施



10月 交通安全パレードの実施

5 成果と課題

(1) 成果・効果

交通安全に対する住民の意識が高まった。

(2) 苦労した点

参加者の確保、他団体との協力。小学校児童との活動であり、平日の午後に実施するため参加者の確保に苦労した。

(3) 今後の課題・展望

活動資金の確保、他団体との協力により活動を継続することが今後の課題。



西福田学区親子運動会



【西福田学区】

■世帯数：1,379 世帯

■人 □：4,700 人

■面 積：4.429km²

平成 24 年 4 月 1 日現在

1 活動・取り組みの内容

- ・ 西福田小学校の校庭を会場に親子運動会を開催。参加者数は約 700 人。
- ・ 運営委員会で作成した要項をもとに町内会役員への説明会を行った後、各町内役員が選手を募り、選手名簿を作成する。
- ・ 町内対抗で行うため、どの競技も大変盛り上がる。各種団体、老人クラブ、障がい者施設利用者が参加する競技も行う。



【住民へのPR方法】

チラシの回覧、掲示板への掲示チラシの各戸配布、各町内の区政協力委員、女性会、子ども会、体育委員の役員を通じて参加呼びかけ

【アピールポイント】

子どもが少ない小さな町内は他の町内に入って参加するため、学区の全町内が参加する。また、幼児から中学2年生まで学区内の子どもがほとんど参加する。子ども会、女性会による町内対抗リレーは大変盛り上がる。

2 きっかけ、背景

学区連絡協議会の全面的な協力のもと、女性会、子ども会、体育委員会が中心となり、地域福祉推進協、老人クラブ、消防団など各種団体の協力で平成 24 年度で 42 回目の開催を迎える。親子での参加を呼びかけているため、家庭のふれあいや地域の絆が深まり、少子高齢化の中で地域の連帯感、顔見知りが増えた。

3 実施の体制

(1) 運営メンバー

区政協力委員、女性会、子ども会、
スポーツ推進委員、消防団員
計約 35 人

(2) 運営協力

学区の全面的な協力でスムーズに
開催している。

4 実施のスケジュール

毎年 1 月 子ども会、女性会、体育委員会の役員が今年の運動会の打合せ



2 月 運動会要項を作成



3 月
・運動会説明会（各町内会から役員が参加）
・プログラムを各家庭に配布
・各町内で要項を元に選手を選出



4 月
・入賞者用景品の購入
・運動会の準備
・運動会開催

5 成果と課題

(1) 成果・効果

- ・住民意識の高まり、交流の深まり。顔見知りが増えたことで世代間交流が深まり、顔見知りが増え、安心安全なまちづくりにつながる。
- ・地域の絆が深まり、連帯感が生まれることで、青少年育成、子どもの見守りにつながる。

(2) 苦労した点

- ・特に苦労した点はないが、屋外で開催するため天候に左右される。

(3) 今後の課題・展望

- ・担い手の世代交代が課題。この事業を次の世代にも引き継いでいくためにリーダーの育成も行っていく。

(4) メッセージ・アドバイス

- ・住民同士が顔見知りになり、子どもや高齢者への日常的な見守りへとつながっている。



公園における犬のフン後始末向上の運動



【福田学区】

■世帯数：4,010 世帯

■人 口：11,059 人

■面 積：1.593 k m²

平成 24 年 4 月 1 日現在

1 活動・取り組みの内容

- ・ ゴミのポイ捨てと犬のフンの放置をなくすため、学区内の全公園でのパトロールのほか、福田コミュニティセンターにおいて愛犬家を対象とした「犬のしつけ教室」を実施。参加者数は約 60 人。
- ・ 小学生に「美しい公園」などをテーマにしたポスターや標語の作成を依頼し、これをもとに啓発看板を作成して公園に設置する。
- ・ パトロールでは青パト車に分乗して公園を巡回し、犬のフンやゴミを収集する。

【住民への PR 方法】

チラシの回覧、掲示板への掲示、公共施設と動物病院にチラシを設置

【アピールポイント】

犬のフンを拾う珍しい試みに対して、幅広く多くの公的機関からの協力を得られたこと。

2 きっかけ、背景

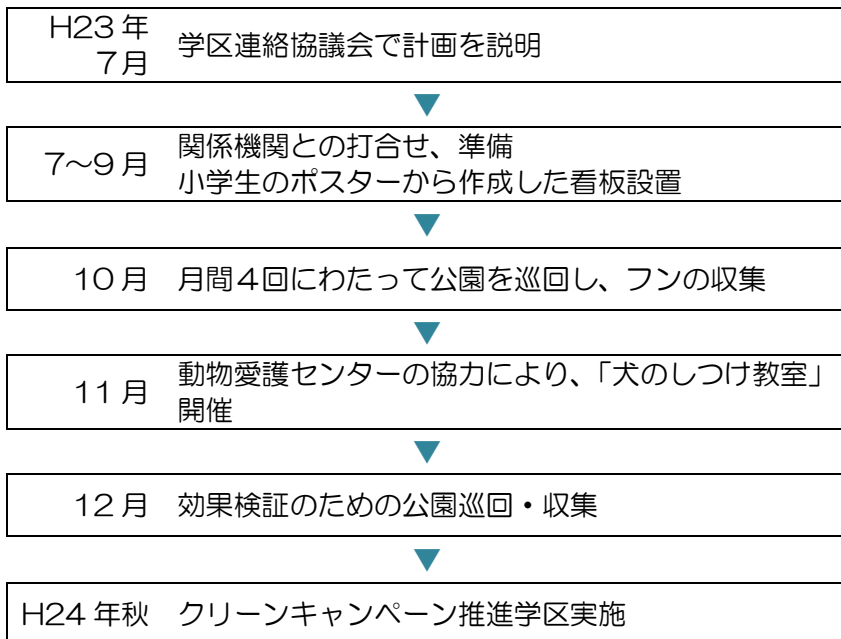
ゴミや空き缶のポイ捨て、分別ごみ排出のトラブルについての要望に対して、学区連絡協議会に作業グループを作り、できるところから焦点を絞って対応しようと活動を始めた。

3 実施の体制

運営メンバー

区政協力委員、町内会・自治会長、保健委員、子ども会、老人クラブ、南陽支所、港土木事務所、港保健所、福田小学校、港環境事業所 計約 50 人

4 実施のスケジュール



(1) 成果・効果

犬のフンの後始末に対する住民意識が高まった。学区連絡協議会で住民の要望に基づいた活動ができたこと。

(2) 苦労した点

住民の理解を得ること。「公園は犬の運動をさせるところ」との認識を理解してもらうことに苦労した。

(3) 今後の課題・展望

活動の継続、活動資金の確保が課題。愛護会よりも幅広い活動を行う「町美ボランティア」の拡充・養成をしていきたい。

(4) メッセージ・アドバイス

町内会費、自治会費を出してくれている住民は、生活者であり、その声を取りあげることが大切です。やれるところから始めよう。

救急医療情報キットの配付



港区福春学区地域福祉推進協議会

【福春学区】

■世帯数：1,903 世帯

■人 口：5,311 人

■面 積：0.994 k m²

平成 24 年 4 月 1 日現在

1 活動・取り組みの内容

- ・ 高齢者、障がい者などの安心、安全のために、かかりつけ医や持病、薬などの医療情報を自宅内に保管し、万が一の救急時に情報を活かす「救急医療情報キット」を配付。利用者は約 100 人。
- ・ 各町内会で民生委員により「救急医療情報キット」配付していることを報告。
- ・ 「秋桜くらぶ」が行う“けんこう体操”の場で活用方法を説明するほか、敬老会で「防災のはなし」をする中でキットの主旨を説明する。
- ・ キットは、救急医療情報用紙に必要事項を記入し、保管容器に入れて冷蔵庫に保管する。また、キットを使用していることを知らせるステッカーを玄関ドアと冷蔵庫に貼付する。

【住民への PR 方法】

チラシの回覧、敬老会など行事で活動の主旨を説明

【アピールポイント】

この事業をすることで「高齢者とのつながり」が深まり民生委員も担当者への訪問がしやすくなっている。

2 きっかけ、背景

年々、ひとり暮らしや高齢者のみの世帯が増加しており、見守り活動の一環として救急医療情報キットを学区名入りで作成し、配付することにした。

3 実施の体制

運営メンバー

民生委員児童委員 9人

4 実施のスケジュール

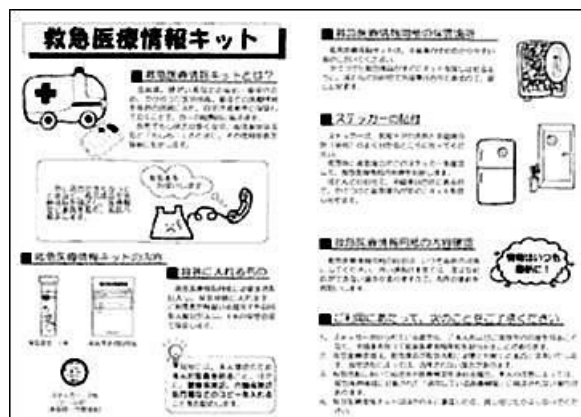
H23年 独居世帯および高齢者のみの世帯を守るにはどう
9月 したら良いかを民生委員児童委員協議会で検討

H24年 学区名入りの情報キットを作成
3月

4月 民生委員が配布開始

5月 各町内会で活動の報告

9月 敬老会での「防災のはなし」で主旨説明



5 成果と課題

(1) 成果・効果

住民間の交流が深まり、特に一人暮らしの方との交流が今まで以上に持てた。

(2) 苦労した点

参加者の確保、活動の担い手不足。他の行事でもキットの説明をして参加者に理解してもらうようにしている。

(3) 今後の課題・展望

ひとり暮らしと高齢者のみの世帯の見守り活動を継続していきたい。